

2021年 新入試 外部検定

文科省が成績提供システムに関する ポータルサイト開設

各大学の新入試概要一覧も掲載

旺文社 教育情報センター 2019年10月8日

文科省は8月27日、「大学入試英語成績提供システム(以下 成績提供システム)」の関係情報をまとめたWebサイト「大学入試英語ポータルサイト」を公開した。来年度の新入試から運用が開始される成績提供システムや認定試験における重要な情報がこのポータルサイトを通して発信される。本記事では、同ポータルサイトに掲載されている情報をまとめた。利用する際のナビゲーションとして役立てていただきたい。

ポータルサイト開設の背景とは

新入試が来年度に迫っていることもあり、今年に入り成績提供システムへの参加要件を満たした一部の検定団体から、試験実施における重要情報が続々とリリースされている。

その一方で、試験の詳細をまだ公表していない検定団体もある。また、各検定団体の試験情報だけではなく、新入試における各大学の予告を見ても、英語外部検定試験(以下 外検)の利用方針はバラバラだ。このように、現時点では成績提供システムを含めた新入試の全貌が見えにくい状況となっている。

そういった状況のなかで、認定試験の1つである「英検 S-CBT」は、すでに第1回検定の予約申込受付を先月の9月18日に開始した。他の検定団体の詳細情報や各大学の外検利用方針が見えない一方で、すでに申込をしなければならない外検も出てきている状況に、高校生や保護者、そして高校教員からは混乱の声も聞こえている。

こうした成績提供システムを含めた新入試の全貌が見えない現状を改善すべく、文科省は8月下旬に成績提供システムや認定試験等の情報をまとめた「大学入試英語ポータルサイト」を公開。掲載情報は随時更新していく方針だ。

ざっくりとポータルサイトに掲載されているコンテンツとは？

では、大学入試英語ポータルサイトにはどんなコンテンツが掲載されているのか見ていこう。ポータルサイトには大きく以下の8つのコンテンツがある。

- 【1】 最新情報
- 【2】 大学入試で外検を活用し英語4技能の評価を推進する意義について
- 【3】 成績提供システムの概要や利用方法
- 【4】 成績提供システムの成績提供の対象となる各外検の概要
(各試験の概要、実施日程、試験実施会場等)
- 【5】 外検活用に関する各試験実施主体の取組内容
- 【6】 大学・短大の成績提供システムの利用予定状況
- 【7】 質疑応答集 (Q&A)
- 【8】 関連資料集

最新情報の【1】から成績提供システムの概要や利用方法の【3】については、文科省がこれまでも折に触れて情報発信している内容となっている。成績提供システムの利用方法がまだ把握ができていない高校生や高校教員は【3】にある「成績提供システム等の概要」というPDFを確認するといいだろう。なお本記事では、特に重要と思われる【4】・【5】・【6】について触れていきたい。

【4】成績提供システム成績提供の対象となる各外検の概要

各認定試験の実施概要、特に申込方法や申込日程を比較しながら確認してみよう！

このパートでは、認定試験である6団体22試験の「実施概要」、「実施日程・試験会場」の情報が掲載されている。

「実施概要」には試験の基本的な情報がPDFでまとめられている。情報量が多く、すべてを見るのは大変だが、以下の情報は受験をするにあたり極めて重要なものとなる。各試験を比較するなどして、あらためて確認をしておくといいだろう。

- ◇検定料
- ◇申込方法 (個人なのか団体も可能なのか等)
- ◇出題形式 (PBTなのかCBTなのか、Speakingは対面式なのか等)
- ◇CBT方式の受験方法 (問題はコンピュータ画面で見て、解答は紙に記入等)
- ◇試験時間・配点

ここでは実施概要一覧に掲載されている「申込方法」についても触れておきたい。例えば英検に限って見ても、英検 S-CBT と S-Interview は、予約申込と本申込の 2 ステップが必要だが、英検 CBT は通常の 1 回の申込で手続きが完了する。要するに、申込方法は同一の検定でも細かなテストの種類によって異なる場合がある。このポータルサイトだけではなく、しっかりと各検定団体の Web サイトでも確認をしておくといだろう。

次に「実施日程・試験会場」。ポータルサイトには各検定団体の各試験情報が一覧になった PDF があるが、記事執筆中の 10 月上旬時点では、ポータルサイトにあがっている PDF は 8 月時点となっており、未定の項目も多い。そのため、最新情報は各検定団体の Web サイトで確認するのがオススメしたい。各検定団体の最新情報はポータルサイト内の各検定団体リンク先から確認するといだろう。

なお、10 月上旬の時点でポータルサイトに掲載されている各検定団体の最新情報を見る限り、公表の状況はバラバラとなっている。この点も高校生や高校現場が混乱する要因だろう。

【5】外検活用に関する各試験実施主体の取組内容

各認定試験の公平性・公正性について参考までに確認しておこう！

このパートでは「試験監督の考え方」・「採点の質を確保するための方策」・「不正防止対策」・「障がい等のある受験生への合理的な配慮の内容」・「試験対策問題集作成についての考え方」等、試験の公平性・公正性に関わる情報がまとめられている。

「試験監督の考え方」では、会場実施責任者や試験監督責任者について、また、実施協力者に高校の教職員が含まれているか、含まれている場合はどんな業務を担うのかなどがまとめられている。そもそも認定試験は、自校の教職員が監督・採点に関わることを認めていない。それ以外の業務だとしても、公平性、公正性という観点から高校の教職員にどのような業務を担ってもらうのかという情報は注目すべきだろう。

「採点の質を確保するための方策」には Writing と Speaking の 2 種ある。それぞれに採点者応募資格、採点者選出基準、採点者の質の向上策、そして採点体制が記載されている。膨大な数の解答を統一の基準で公平・公正に採点することは簡単ではない。それゆえに、各検定団体にとっては大きな課題であり、詳細に方策を示している。

「障がい等のある受験生への合理的な配慮の内容」については、試験ごとに対応が細かく掲載されている。具体的には、視覚、聴覚、肢体不自由、病弱、発達障がい、その他の配慮事項（運動障がいや吃音症等）など、対象者ごとに 4 技能の対応がまとめられている。各試

験で対応が異なるので、障がいのある受験対象者は各試験の対応を確認しておくといだろう。

「試験対策問題集作成についての考え方」は、試験を実施する検定団体がその試験の問題集を作成しているかについて記載されている。財団法人である英検協会以外の検定団体、ケンブリッジ大学英語検定機構、ETS、株式会社ベネッセコーポレーションは問題集作成にも関わっている。そうした検定団体については、同資料内で、問題漏洩など不正が疑われないような取組について具体的な対策を示している。

このパート【5】は情報が非常に多く、すべてを確認するのは現実的ではないので、各々が気になる部分について参考情報として確認するのがいいだろう。

【6】大学・短大の成績提供システムの利用予定状況 気になる大学の入学試験を確認してみよう！

このパートでは、各大学・短大の入学試験の概要が表形式でまとめられている。成績提供システムの利用有無、認定試験の利用方法といった外検情報に留まらず、共通テストや国語の記述式利用などについても、大学ごとに掲載されている。大学によっては、自身のHPで公表している予告よりも詳細な内容になっており、高校生や高校教員にとっては非常に有用な情報源と言えるだろう。